

米FOMCは10月からの資産縮小開始を決定

- 米連邦公開市場委員会(FOMC)は追加利上げを見送り。FOMC参加者は年内の0.25%の追加利上げを見込む。
- FOMCは大方の市場予想通り、10月からの保有資産の縮小開始を決定。9月20日の米国株は過去最高水準を更新。
- イエレン議長は低インフレに対する懸念を表明。低インフレ環境の中、FOMCは今後も慎重な利上げ判断を継続へ。
- 量的金融緩和からの自立を果たしつつある米国株。当面は10月にかけて本格化する米企業決算が注目材料に。

FOMCは追加利上げを見送り

米連邦公開市場委員会(FOMC)は9月20日(現地時間)、フェデラル・ファンド(FF)金利の誘導目標を1.00-1.25%で据え置き、追加利上げを見送りました。

FOMC参加者の政策金利見通し(中央値)によれば、引き続き2017年内の0.25%の追加利上げが見込まれており、2020年末には2.875%へ政策金利を段階的に引き上げる利上げ継続の方針が示されました(図1)。

FOMCは10月からの資産縮小開始を決定

一方、FOMCは米国債や住宅ローン担保証券(MBS)など保有資産の縮小に関して、10月からの開始を決定しました。資産縮小開始の決定が概ね市場の予想通りだったことや、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長が記者会見で低インフレに対する懸念を示し、利上げペースの加速観測が後退したことで、9月20日の米国株(S&P500指数)は過去最高水準を更新しました。

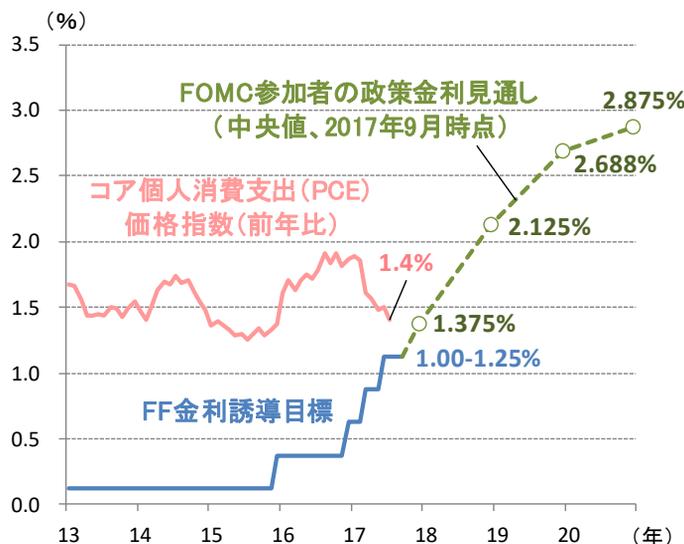
FRBが物価の目安として注目するコア個人消費支出(PCE)価格指数は、2017年7月時点で前年比+1.4%と物価目標の2%を下回る推移が続いています。低インフレ環境が続く中では、FOMCは今後も慎重な利上げ判断を行うものと考えられます。

今後の注目は7-9月期の米主要企業決算

FRBの量的金融緩和が2014年10月に終了を迎え、2015年12月から利上げに転換する中でも、米国株は最高値を更新する上昇基調を取り戻し、量的金融緩和からの自立を果たしつつあります(図2)。

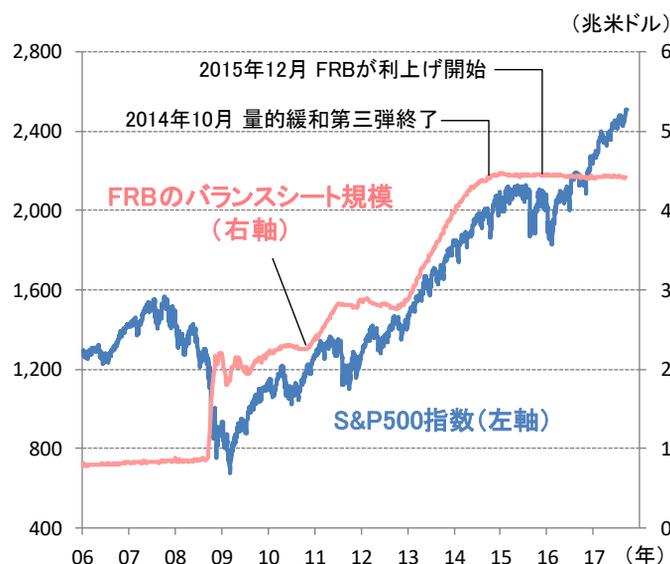
足元の米国株式市場では、トランプ政権による政策期待や緩和的な金融環境よりも、企業業績の拡大が株高を下支えしていると考えられます。当面は10月にかけて本格化する米主要企業の2017年7-9月期の決算発表に市場の注目が集まりそうです。

図1: 米政策金利とFOMC参加者の金利見通し



(出所) 米連邦準備制度理事会(FRB)、米商務省経済分析局 (期間) 2013年1月~2017年9月 (物価指標は2017年7月まで)

図2: FRBのバランスシートと米国株の推移



(出所) FRB、ブルームバーグ (期間) 2006年1月3日~2017年9月20日

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。